

## 28. ウルメイワシ 潤目鯛

春



食器協賛: 九谷焼協同組合

### ◇撮影後のコメント◇

獲れる時は沢山獲れるし、獲れない時は全く獲れない。恣意的な言い分であろうが、ある時期(期間中)恒常的に一定量(消費分)獲ればと思っているのはワシだけだろうか？まあ、そんな都合の良い漁獲になるはずはないし、あり得ない。ならば養殖？イワシ類の養殖もあり得ないか。写真は酢(塩)×最高の味となった。伝わりましたか？

前項の続きである。TVでそれが大漁のニュースが放送され、その中でその定置網の長の付く方が、鯛が大漁であるのに固い表情(大漁エビス顔でない)で話されているのをよく覚えている。その主旨は前項の通りである。旧態依然とした漁獲・出荷は、その終焉の時期を迎えているのではないか。釈迦に説法と重々承知であるが、その改善点は①定置網の網目と部屋の見直し(一網打尽から取捨選択へ)②定置網以外の漁獲の出荷対象の棲み分け(生食用、加工用、エサ用)と漁期の短縮③2ピン法採用による蓄養経由の出荷。これらが全てではないが、その改善の効果は期待できる。そして、その目的は①消費者のニーズと漁獲者による漁獲の量・種類のミスマッチの解消を図る。②生産量(漁獲量)のバラツキと需要のバラツキを調整・緩衝する狙い。③消費者サイドの機会損失の遁減・根絶(旬以外の無いは許される)である。改善点②③は、他魚種にも応用可能であろう。